

科目名		一般構造Ⅰ			
担当教員	目黒 敬也	実務授業の有無		○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の構造の種類や基本的な仕組み学ぶ科目で前期は木構造を主体に学び、木の特徴や木構造の構成を産学や事例を通して学ぶ。 1. 木造建築物の構造、工法の種類と建築物の基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標 (到達目標)	建築物の構造の種類や基本的な仕組みを習得する。前期は木構造を主体に学び、木の特徴や木構造の構成を習得し。建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築一般構造 (学芸出版社)				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	基礎 ①基礎の種類と構造、注意点	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	地盤 ①地層による年代区分と、土の種類	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	建物にはたらく力 ①荷重の種類・外力の種類と建物にかかる力 ②構造計算	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①～②の予習			
4	建物全体の構造計画 ①建築構造の分類とその特徴 ②計画に適した構造を選択する	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①～②の予習			
5	木構造の基礎 ①木材の性質、特徴 ②木構造の種類とその特徴	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①～②の予習			
6	在来工法 ①在来工法の部材名称 ②在来工法の基礎と地盤の種類と特徴 ③在来工法の壁の種類と構造及び特徴 ④在来工法の接合部の納まりと接合金物、 ⑤補強金物の種類と使用箇所 ⑥軸組として在来工法の土台、柱、横架材、筋違いの種類と特徴	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①～⑥を理解する 準備学習：教科書①～⑥の予習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・小テスト・授業態度を総合的に評価します。 期末試験70%、小テスト20%、授業態度10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について学ぶ。 1年生前期は最も身近な木造について、仕組みを中心に解説をし、項目履修ごとに小テストで習熟度を確認し、合格基準の到達を目標とさせる。			
実務経験教員の経歴 建築大工として約5年実務に携わる					

科目名		一般構造Ⅰ			
担当教員	目黒 敬也	実務授業の有無		○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の構造の種類や基本的な仕組み学ぶ科目で後期は部材の詳細、壁量計算を主体に学び、木の特徴や木構造の構成を産学や事例を通して学ぶ。 1. 木造建築物の構造、工法の種類と建築物の基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標 (到達目標)	建築物の構造の種類や基本的な仕組みを習得する。後期では木造の各部材の詳細や、壁量計算などの2級建築士試験の試験範囲『構造』にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築一般構造 (学芸出版社)				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	木造在来軸組工法における壁量計算-1 風圧力・地震力の壁量計算を行う	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
2	木造在来軸組工法における壁量計算-2 四分割法の壁量計算を行う	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	木造在来軸組工法 小屋組、床組、仕口を知る	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
4	木造枠組壁工法 2×4工法の各部名称とその仕組みを知る	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
確認テスト、期末試験、出席、授業態度を総合的に判断して評価する。 期末試験70%、小テスト20%、出席・授業態度10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について学ぶ。 1年生前期は最も身近な木造について、仕組みを中心に解説をし、項目履修ごとに小テストで習熟度を確認し、合格基準の到達を目標とさせる。			
実務経験教員の経歴 建築大工として約5年実務に携わる					

科目名		一般構造Ⅱ			
担当教員	目黒 敬也	実務授業の有無		○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の構造の種類や基本的な仕組み学ぶ科目で鉄筋コンクリートを主体に学び、コンクリートの特徴や基礎、地盤を産学や事例を通して学ぶ。 1. 鉄筋建築物の構造、工法の種類と地盤、基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標 (到達目標)	建築物の構造についての知識を会得する 二級建築士の学科試験のうち、『構造』の得点に必要な内容を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築一般構造 (学芸出版社)、 ②配布プリント等				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	鉄筋コンクリート造-1 ①コンクリートの特徴、 ②鉄筋の特徴	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①、プリント②の予習			
2	鉄筋コンクリート造-2 ①鉄筋コンクリート造の特徴、 ②鉄筋コンクリート造の原理、構造形式	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
3	鉄筋コンクリート造-3 ①鉄筋の配筋計画、各部の構造、階段	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
4	基礎 ①基礎の種類と構造	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
5	地盤 ①地盤の種類と構造	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産学達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習			
6	確認テスト①	項目1～5の内容を抜かし模擬テストを実施。 準備学習：項目1～5を教科書、プリントなどで復習			
7	確認テスト②	項目1～5の内容を抜かし模擬テストを実施。 準備学習：項目1～5を教科書、プリントなどで復習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・確認テスト・授業態度を総合的に評価します。 期末試験70%、確認テスト20%、授業態度10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について学ぶ。 2年次前期では、鉄筋コンクリート施工について、仕組みを中心に解説をし、項目履修ごとに小テストで習熟度を確認し、合格基準の到達を目標とさせる。			
実務経験教員の経歴 建築大工として約5年実務に携わる					